

3.3. 散布緑化工法による木本植物導入法

1. 試験担当者

| | |
|---------------|-----------|
| 本場防災部治山第二研究室長 | 岩 川 幹 夫 氏 |
| 東北支場経営第四研究室長 | 村 井 宏 氏 |
| 関西支場防災研究室 | 小 林 忠 一 氏 |

2. 試験目的

現在行なわれつつあるヘリコプターなどによる散布緑化工では、緑被構成が特定の草本類にかたまり、治山効果のかたい木本植物の成立がよく制されて問題となる。このため侵食防止効果のかたい緑被をすみやかに形成するとともに治山本来のねらいである木本植物の成立を、早期に省力的に達成する方法を研究する。

3. 昭和45年度の経過とえられた結果

本 場

1. 長野営林局中川治山事業所管内（凍上花崗岩地帯）に試験地を選定して概況調査を行ない、場内圃場では、播種内容別、土層別などによる播種実験を行なつて基礎的に検討した（44年度）。
2. 中川治山事業所管内に樹草の生育特性区別、混播割合、播種量などをかえた試験工を施工し、初年目の調査を行なつた。初期生育の違い木本植物は、混播割合をかえることによつて、草本との競合にたえて生育することがかわれる（45年度）。
3. 立地条件のことなる丹沢治山事業所管内（凍上第四紀層地帯（表層））にあらたに試験予定地を選定した（46年度に試験工施工）。

○東北支場

1. 現地試験

立地条件の異なつた3箇所の国有林荒廃地に試験地を昭和45年度に設定し、主として携帯用吹付機を用い、木本と草本の混合割合や地植え処理を加えて施工をおこなつた。植被の拡がりや流出土砂量の定期的調査を実施した。（岩手県下岩手、磐石、北上営林署管内）

2. 圃場試験

支場管内の圃場において、樹草種の混合形態や播種密度をかえた比較試験をおこなつた。

○関西支場

初年度においては散布種子の発芽特性、圃内平地での発芽および生育試験比良山系での現地実態調査および滋賀県下ならびに広島県下で第2年度から計画している現地試験地の踏査選定を行なう。

1. 発芽特性としては、木本と草本間に発芽率、発芽勢、平均発芽日数にかなりの違いが

みられた。

2. 圃内試験で木本草本の種子混合割合の違いによる発芽生育競合状態を調べたが初年度では顕著な差がみられなかつた。
3. 現地調査では、木本の成立自然侵入が僅少であつた。
4. 滋賀県立石山国有林に現地試験地を設定した。

4. 昭和46年度の試験計画

○本 場

1. 中川地区（凍上花崗岩地帯）に設定した試験工の経過調査を行なう。
2. 丹沢地区（凍上第三、四紀層地帯）に試験工を施工し、初年目の経過調査を行なう。

○東北支場

1. 現地試験

立地条件の異なつた3箇所の国有林荒廃地に試験地を追加し小型吹付機を用いて、昨年度と同様の試験施工をおこなう（岩手県下、岩手、磐石、北上営林署管内）。昨年度の試験地については、春季に成績調査をおこなう。

2. 圃場試験

昨年度施工した試験地の継続観察をおこなう。

○関西支場

1. 圃内での試験を継続する。
木本消失および成長競合状態を調査する。
2. 現地試験地での木本の生育経過を調べる。
3. あらたに広島県大野町での木本の混合散布現地試験を行なう。